

第2回 みどり市立学校適正規模・適正配置大間々地区検討委員会 議事録

○日 時 令和7年1月6日（木） 午後7時00分～午後8時50分

○場 所 大間々庁舎 3階 大会議室

○出席者

【みどり市立学校適正規模・適正配置大間々地区検討委員会委員】12名

委員長	田口 和人
副委員長	備海 忍
委員	新井 博介
委員	大江 潤一
委員	鈴木 義雄
委員	河内 良範
委員	今井 俊彦
委員	富所 哲平
委員	松島 千里
委員	植木 文貴
委員	寶木 政則
委員	林 剛史

【欠席者】 1名 委員 今泉 喜美

【みどり市教育委員会】 8名

みどり市教育委員会	教育長	保志 守
みどり市教育部	部長	金高 吉宏
教育総務課	課長	今泉 源太郎
学校教育課	課長	神山 亮一
教育総務課	課長補佐	園原 裕一
学校教育課	課長補佐兼指導係長	知久 鉄平
教育総務課施設係	係長	大窪 進
学校教育課教職員係	管理主事	西村 晋一

【報道機関】 桐生タイムス社

【傍聴者】 なし

○議事の大要

1 開会 [開始：午後 7 時 00 分]

2 委員長あいさつ

3 協議事項

- ・前回の協議内容の概要と今回の協議事項について、【資料 1】に基づき、委員長から説明。
- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発言者	発 言 内 容
委員 1	<p>前回は夏の暑い頃だったと思います。何ヶ月経ったか分かりませんが、前回の協議内容が資料 1 のような内容だったか定かではない。こんな内容だったとは思っていない。そもそも今頃このようにまとめて意味がない。会議が終わった後、せめて 1, 2 週間後に議事録が出なければ、新鮮味も、誰が何を話したのかも分からぬ。私が発言したことは載っていない。そもそもみどり市の学校の適正規模計画になっていない。東村、大間々町、笠懸町 3 つの教育委員会の学校配置計画になっている。根本的におかしいと思う。みどり市になっていない。話を矮小化して南小がどうのこうのと言っている。論点がおかしいと思う。そもそもこんな発言誰がしたか分からぬ。発言者の名前も書いてないし。誰がどんな発言をして、それに対してどんな反論があったか分からぬ。物事の決定の経緯が分からぬ。これは桐生の新庁舎の事件でも問題になった。議事録もないと。議事録がなければどういう経緯で物事が決定していったか検証のしようがない。そもそも私は委員長に言っているのではない。これをまとめたのは事務局、教育委員会でしょう。教育委員会が本来ここにいなければいけないので、なんで端にいるのか。委員長と議論する気はない。私は教育委員会に発言したのであって、委員長に言ったのではない。この会の進め方が根本的におかしいと思う。本来矢面に立つのは教育委員会、保志教育長以下事務方だ。検討委員会の形自体がおかしい。教育委員会が積極的に前面に出て、こういうことなんだと正々堂々とやつたらどうか。なぜ端の方で目配せしながらやつているのか。前回も誰が何を話したのか分からぬ。せっかくマイクを持ってきたってマイクも使わぬ。教育長の挨拶から何言つてるか分からぬ。こんな進め方で検討委員会が成り立つのか。学校現場ではこんなやり方はしないでしよう。学校現場では子どもたちと先生が清々堂々と渡り合つてゐる。なんでこんな姑息なやり方をするのか。</p> <p>それから、前回も途中で誰かが目配せしたと見えて話が脇道に逸れたけれども、暑さ対策のために通学距離を 4 km から 3 km に縮めるとある。3 km に縮めることが本当に暑さ対策になるのか。それ 1 点しかないので。他にもたくさんあるはず。他市ではバスで通学する等やつてゐる。なぜ 4 km を 3 km にするのか。笠懸に学校を作りたい、笠小を新しく作り変えたいという話が見え見えではないか。笠小もリフォームしなければ老朽化すると言うならばリフォームすればいい。一般民家はリフォームして住まいの長寿命化を図つてゐる。なぜ学校だけ長寿命化をしないで簡単にスクラップ & ビルドをするのか。しかも合併して</p>

	<p>以来大型投資は笠懸ばかり。それが本当に役に立っているのか。笠西小もいらないという話だった。他の学校には空き教室があるのだから、それを見直せば作らなくて済んだはず。議会でも地域説明会でも話題になった。それを強引に進めた。その結果何が起ったか。ある人の政治資金口座に100万あまりのお金が毎月4年間入っている。あまりにも不透明ではないか。また同じ方程式だ。何回も同じことをやれば分かる。温泉だってそう。お湯が出ないのに温泉だと言っている。根本的におかしい。教育長だって知っているはず。強引に進めたある人の政治資金口座に103万円入っている。建設会社、測量会社、設計会社から合わせて103万円、月々に4年間。しかもこうやって役所を舞台にして、シナリオを作り強引に建物を作ろうとしているように見える。桐生の市役所と同じ方程式ではないか。学校の先生である人たちが平気でそういうことをしていいのか。生徒たちは正しくあれと諭しながら自分たちがやっていることは全然正しくない。正しいと思うならここで正々堂々と計画を述べればいい。みどり市の学校適正配置・適正規模の検討委員会なんだと。正々堂々とやれないから端の方に引っ込んでいるんでしょう。委員会自体の在り方がおかしい。強引に話を進めようとしている。私は暇で来ているのではない。最初から結論ありきで、この結論にもって行こうとしているのが見え見えだ。市民を馬鹿にしないでほしい。我々は区長会を代表して来ている。この方たちはP.T.Aを代表して来ている。</p>
教育長	<p>教育委員会の方向性をしっかりと出して、この場に入って話をするべきだということですが、教育委員会とすると、この地区別検討委員会の前にみどり市全体の検討委員会を開かせていただきました。その折りにでも、市民の皆さんからお話を十分いただくということを第一のスタンスとしています。この地区別検討委員会でも同じように地区の皆さんの考えを大事にして、まずは聞くというスタンスを設けているところです。ということで、まずは区の中心の皆さんや学校に関係する皆さんに意見を出していただきたいということです。そのベースとなるのが、前段であった検討委員会です。そこで、みどり市全体に問い合わせもいたしましたし、それを基にして市の方向性である基本方針を出させていただきました。それをベースにして、さらに地区の皆さんにご意見等をいただきたいということでこの地区別検討委員会を開いていますので、まずはごでのご意見を聞かせていただくという意味で、こちらの席にあります。まずは委員の皆さんから丁寧な協議をいただく中、忌憚のないご意見をいただきたいというのが教育委員会としての姿勢であります。よろしくお願いします。</p>
議長（委員長）	<p>今、みどり市全体を3つに分けて地区ごとの委員会を行っています。この地区ごとの前の段階で全体の検討委員会があり、私はそこでも委員長として参加しています。そこでみどり市全体を見渡して検討を行いましたが、東、大間々、笠懸それが特徴をもっているので、地区ごとに具体的な検討をしていこうということが、全体の検討委員会の委員の皆さんのご意見としてありました。そういう積み重ねがあって大間々地区の検討委員会が開かれています。笠懸も東もそうです。そのようにご理解をいただきたいです。その中で、委員1さんが言うような問題も議論になると思います。特に、資料1の〈方向性を得る</p>

	<p>協議内容〉の③にはその問題が入っていますので、そこでご意見をいただきたいと思っています。座席などの会議の形態については、この会議は教育委員会からの諮問機関ですから、諮問機関としての立場としてこの形態は理解できると思います。</p>
委員 1	<p>3 地区の特徴が違うと言うが、何がどう違うのか。違うと言えば違うかもしれない。違わないと言えば違わないかもしれない。おそらく大差はない。合併したのだから、3 地区に分けるのではなくみどり市としての計画を立てるべき。1 月に住民説明会があって、パブリックコメントもあった。私は両方で同じ発言をしたりパブリックコメントを出したりしているが、一切答えてもらっていない。前回の委員会でも過去の経緯はどうなっているのか質問したが、私の発言は取り上げなかった。極めて恣意的な進め方をしている。そこに不信感をもっている。最大の不信感は、住民説明会やパブリックコメントでどんな意見が出てどう対応したのか、その中に私が提案したものが 1 つもなかったこと。それから、前回暑さ対策で 4 km を 3 km にするとある。こんなの子供騙し。2 km なら本当に暑さ対策になるのか。笠小を作り直したいという意図が見え見え。笠西小を作ったときと同じ論理だからすぐに分かった。話がそっちの方向に行くとすぐにはぐらかして違う方向にもって行こうとする。適正規模・適正配置についてみんなで検討しようということだが、原案を作ったのは教育委員会だろう。</p>
委員 2	<p>いや、選択肢はいくつもある中で、前の段階の会議で話し合った結果です。私もその会議にいました。その会議である程度の選択肢に絞りました。その選択肢の原案は確かに教育委員会から出されたものでしたけど。それを踏まえた上で、委員 1 さんがいらっしゃらない会議で決まつたことです。全部の会議に出ることは難しいと思うので、全部をコントロールしようとするのは難しいと思います。出られなかつた会議なんだからしようがないと思います。ゼロには戻せないでしょう。</p>
委員 1	<p>私がいないのは当たり前でしょう、前段の検討委員会のメンバーではないのだから。今は 1 月の住民説明会の話をしている。要するに、やるならちゃんとやろうと言っているんです、私は。笠小を作り直したいという論理に強引にもって行くのではなくです。</p>
教育長	<p>教育委員会とすると、その意図は全くないです。</p>
委員 1	<p>意図があるとは教育長の立場からは答えられないでしょう。でも見え見えだと言っている。暑さ対策を 4 km から 3 km にするなんて子供騙し。暑さ対策は他にはないのか。3 km になつたら本当に暑さ対策になるのか。前回その話をしようとしたら話をすり替えられてしまった。進め方自体に問題がある。もし笠小を作り直すとなれば何十億とお金をかけるわけでしょう。笠西小を作るのに当初予算で 30 億かかったわけだから。作らなくていいものを。なぜ作らなくていいと言つたかというと、30 億あればみどり市でインフラ整備をやってほしいところがたくさんある。通勤地獄、働く場所がない、企業誘致、一つも手が付かない。箱物ばかり作つていて。体育館を作つたときから箱物ばかり。体育館、笠西小、温泉、みんな笠懸。それでみどり市全体の発展計画になるのか。</p>

	杜撰だという点で関係しているから言うけど、東の山間部は人口減少が激しいから移住者に最大 5 3 0 万あげるとある。よく見たら 5 年住めばよいとある。5 年住んで 5 3 0 万も元が取れるのか。何のために移住させるのか。一時一人二人増えたって何の意味もない。5 年経ったらいなくなってしまうなら。
委員 2	その話は私も同感です。今回の検討委員会でもその気配が見えるということですね。でも、さっきはそうではないと言っていますし、そうではないことが証明されるように 1 からみどり市全体で検討してきて今日この地区ごとの会議がある訳なので、このままだと話が進まないと思います。委員 1 さんはどうしたいのですか。何か代案はあるのですか。
委員 1	だから、代案を言っているじゃないか。
委員 2	会議をやり直そうということですか。
委員 1	もちろん。スタートからおかしいから。
委員 2	だったら今日の会議に招集する前に言ってほしいです。
委員 1	招集する前じゃない。1 月の住民説明会でも発言しました。パブリックコメントでも出しました。あたかも何もしないで今頃言うなという話ではない。
議長（委員長）	今日は大間々地区の第 2 回の委員会です。第 1 回があって第 2 回に続いています。そこはご理解いただきたい。1 月の話というのは、確かにおっしゃるようなことがあったのかもしれません。私は参加していないので分かりません。ですが、第 1 回で委員 1 さんもご参加いただいて協議が行われました。第 1 回の議事録につきましては、みどり市のホームページに掲載されています。そして第 2 回のところで議事録を基にしての議論はなかなかできないと思います。
委員 1	議事録はホームページに出てるからいいということではないでしょう。ホームページに載せたことなど聞いていないし。議事録は、会議が終わった後 1, 2 週間後くらいには出席者には出すものではないのか。ホームページに載せたからいいというのはおかしい。
議長（委員長）	前回の会議で委員 1 さんは議事録のことを質問されました。そして、議事録についてはホームページに載せると事務局から回答がありました。それで今日に至っています。そこはご了解いただきたい。
委員 1	議事録はホームページに載せたからいいというものではない。出席者に渡すものでしょう。
議長（委員長）	ホームページに載せることは第 1 回の会議で皆さんにお伝えしました。そういう形でご了解いただいたと考えています。
委員 1	あれだけ議事録をちゃんとまとめるとお願いしたのだから、会議の招集の通知に「ホームページを見てきてください」とか書くべき。議事録を渡さないのなら。ホームページを見てアバウトだったら怒りますよ。だから現物で共有したらどうかと言っている。俺は見たからいいよということではないでしょう。見たけど分からないということもあるだろうし。
委員 2	意図的に自分の意見が削除されているのではないかと感じていると思うの、そこは最大限配慮をいただいて納得していただきたいです。
議長（委員長）	確かに今日の会議の招集の時に、前回の議事録はホームページにあるという

	という案内はあってしかるべきだったと思います。
委員 2	委員 1 さんのご意見を意図的に拾わないようにするなんてことはないと思います。
委員 1	なんであなたにそれが分かるんですか。あなたは当事者ではないでしょう。なぜそんなことが言えるのか。
委員 2	そんなことをしても意味がないからです。
委員 1	あなたの発言自体意味がないではないか。分かったふりして。私は教育長に聞いているのであってあなたから聞いているのではない。
教育長	前回の委員 1 さんからのご意見も、第 2 回の笠懸地区検討委員会でご披露しています。そして、笠懸等のことについて全市で考えるというスタンスで、今はお互いの地区ごとにやっていますけれど、それぞれに出たご意見を共有し、ご意見をいただいている。
委員 1	私が発言したことを笠懸でも話しましたと言っているのですか。
教育長	そうです。
委員 1	そんなこと、私には意味がない。私が言っているのは、冬の住民説明会、パブリックコメント、そのときにみどり市の計画になつてないと発言しました。そして、夏の第 1 回目のこの委員会でもどんな意見が出ていたのか聞きました。私が提案したことは述べませんでした。
教育長	委員 1 さんのご意見ご質問については、その時点でお話をさせていただいたと記憶しております。
部長	この会議を開催するにあたり、皆さんには、大間々地区をどうしようかと考えてこの会議に来ていただいている。その中で、委員 1 さんは教育委員会の方に不備があるというお話をされていると思うので、その部分についてはまた後日、教育委員会が委員 1 さんとお話をさせていただく機会を設けさせていただいて、今日はみどり市の適正規模・適正配置の基本方針を基にして、それぞれの地区にとって必要な議論をしていただきたいです。大間々は大南小が起点になって今後どうしていったらいいかについて純粋にお話を聞きしたいと思っています。今回はここまでにしていただいて、他の委員さんの意見も聞かせていただきたいです。
委員 1	その言い方は、もういい加減に黙りなさい、この既定の路線で進めたいんです、と言っているようなもの。こちらはスタートの時点からおかしいと言っている。3 地区の計画ではおかしい、みどり市の計画になつてないと。1 月から言っている。
部長	前回、委員 1 さんがお話しいただいた内容は把握させていただいております。他にも皆さんからお話を聞きしました。そして今回は、そのご意見を基にして大間々地区をどうしようかということを検討してもらうために集まっています。過去のことについてあるとすれば、当然教育委員会から話をさせていただこうと思っています。今回は収めていただいて、今日の趣旨に沿って話を進めていただけないでしょうか。
委員 1	そういうやり方があなたの方のやり方だ。スタートポイントが違う、この計画

	自体がナンセンスだと言っている。
部長	でもそれは、まずみどり市全体の適正化の委員会を開いて、皆さんのご意見を聞きながら事務局でまとめさせていただいた基本方針に則っての作業です。委員1さんが納得できないということは分かりました。でも他の方はそうのかどうかというところもあると思います。
委員1	他の方とか多数決の話ではない。
部長	ここに集まっていた方ですから、趣旨を理解して来ていただいていると思います。
委員1	そんなことあなたには分からないでしょう。なんで代弁できるのか。
部長	だけど、今のままだとこのままで時間が過ぎてしましますので、このことはここで終わりにしましょう。
委員1	このまま時間が過ぎてではない。1月からずっと時間が止まっている。
部長	その話はご存じない方もいらっしゃいます。
委員1	他の方はご存じないと言っているけど、知るようにしなかったのは教育委員会でしょう。
部長	そのことについては、これからちゃんと話をさせてくださいということです。
委員1	今更なんだという話でしょう。1月にあった話を皆に知らせないでおいて、皆が知らない話だというのはないでしょう。
部長	ですから、それはお互いに話をさせていただく中で解決できる問題だと思います。
委員1	それなら1月の住民説明会の時点で答えなければいけないだろう。パブリックコメントについても。でもこの頃は全くレスポンスがない。夏の会議でもレスポンスがない。
部長	お話をさせていただく我々も話ができる状況にはあると思いますので、今ここでこの話は収めていただきたいです。
委員1	そんなこと言われても私は納得しない。
部長	納得しないのは分かりました。だからお話をしましょうということです。
委員1	その場限りの言い逃れを言ったってダメ。あなたには何回もだまされているんだから。公民館の件もそう。いいようにだまされた。
部長	またお話を聞かせていただくので、この会議についてはここでしっかり議論を進めて皆さんからのご意見を聞かせていただきたいと思います。
委員1	委員長さん、悪いけどそもそも会議の意味がないと思っている。3地域の計画の話をしてしまうがないだろう。3地域でやれば、結論は笠懸に小学校を作り直すことになる。その方向に行きたがる。だから私は粘っている。
部長	今は笠懸の話はしていないじゃないですか。
委員1	あなたが何を言っても信用しない。やっていることが違うから。
部長	分かりました。そのところはもう少し我々と話をさせてください。
委員1	教育長も部長も何度も話をしても毎回はぐらかされる。毎回だまされる。今回は皆をだまそうとしている。作らなくていい学校を作ろうというシナリオに乗せようとしているわけだから。

部長	でも今回の大間々地区についてはそういう話ではありません。笠懸地区に学校を建てようという話ではなく、今回は大間々地区の一番重要なところについて地区の皆さんに集まつていただいてお話を聞かせていただきたいということです。他にも大間々地区で生活されている方がいらっしゃって、学校をどうしようかと真剣に考えて集まつてきてもらっていると思いますので、皆さんの意見も聞いていただきたいし、その中で1つにまとまっていくのならば我々もその方向で進みたいと思っています。
委員 1	話を進める必要はないでしょう。話を進めればこういう結論で行きましょうということになってしまふ。
部長	ここで話し合つて「このように行きましょう」となれば、我々もそれに沿つていくと話をしているではないですか。
委員 1	夏の結果だってこんな結果ではなかった。もう信頼できない、やっていることが。毎回やられている。部長にも教育長にもだまされてきた。
教育長	決してそんなことはないと思います。
委員 1	公民館の件で、いいように。市会議員も白状しているんだから。
部長	その話はまた今度にしましよう。
議長（委員長）	議長として、時間の問題があります。そして、今日は第2回目として皆さんにお集まりいただいています。その点はご了解いただきたい。そして、先ほども申し上げましたけれども、大間々地区について第1回の会議を開きました。そこには委員1さんもいらっしゃいました。そして第2回目。このような流れの中で議論いただきたいです。先ほどの教育委員会に対するご意見については、部長さんがおっしゃったようにしていただいて、今日のところは大間々地区について。特に大南小の問題は大きいですよね。この問題をどうするかについては皆さんのご意見を聞きながら進めていかないと難しいと思います。
委員 1	大南小の問題に絞ればではない。みどり市の学校適正規模・適正配置の話をしているんです。ローカルな話をしているのではないです。最初のスタートポイントが違うと言っているんです。3地区の計画ならば、ここで議論する必要はない。このまま話を進める意味がない。
議長（委員長）	少なくとも前提があるわけです。みどり市全体の委員会は時間をかけてやりました。委員会で答申を出し、それを基に基本方針ができあがっています。その議論の中で「地区ごとに抱えている問題が異なるから地区ごとに検討しよう」となりました。ですが、地区の中に閉じこもって議論をしようということではありません。教育長がおっしゃったように、隣同士の問題を確認しながらそれぞれの地区のことを考えていきます。
委員 1	笠西小ができるに至った経緯、あの頃のみどり市の学校適正配置の話を知っていますか。空き校舎がいっぱいあるんだから作らなくていいだろうという意見がある一方で、笠西小を強引に作りました。一方、大間々地区は、北部からバス通学をさせた。同じみどり市の中でバス通学をさせ、作る必要のない学校を作った。挙げ句の果てに、誰かのところにお金が入っていることになるのではないか。こういう流れができている。そういう流れの中で話を考えないと、話が見えてこないと思う。笠懸地区だけでやれば、笠懸の小学校を作り直すこ

とには、笠懸の皆は大賛成だ。だから地区別にやるのはおかしい。みどり市としてやらないと、また笠懸に小学校を作るという話になる。笠懸地区の学校配置の経緯を考えると、皆適当なところに学校を作ってきた。なぜ笠東小があんなところにあるのか。なぜ笠北小があんなところにあるのか。笠西小は国道をまたいですぐ近くに作った。近すぎることは最初から分かっていた。その都度その都度恣意的な計画で、最適ポイントを選ばずにやってきている。それを何回も繰り返している。笠懸に小学校を作り直すとなれば、また誰かのところにお金が入ることになりはしないか。こういう方程式。そんなことやっていいんですか。そんなところにお金を使うのではなくて、今みどり市民が本当に困っていること、交通インフラ、働く場所がないこと、こちらに30億50億お金をかけたらいかがですか。こういう思いで私は主張している。ただ単に反対しているわけではないです。こういう恣意的な3地区の計画、委員長さんもいらっしゃったかもしれないけど、原案を作ったのは事務方でしょう。それに対するあなた方はその経緯を知らずに乗せられてきたわけです。

私は20年間、区長会を通じてみどり市の行政を見ています。誰がどう動いているかは手に取るように分かる。またやるんですか。誰がこんな計画を作ったかも分かっています。みどり市の公共施設管理計画というものがある。この中で、みどり市は学校の面積が大きすぎるということが前々から分かっている。そういう中で笠西小を作り、今回も笠小を作り直そうとしている。極めて恣意的な公共施設管理計画を作っている。公共施設管理計画の最大の恣意的なポイントは、新庁舎を作ること。ページをめくっていくとそのページだけ文字が大きくなる。文体も変わる。極めて恣意的。その説明会も、市長、副市長は出てこられない。そんな恣意的な説明会には出たくない。そして、市民へのアピールは少ししかやらない。ここに市役所の幹部が30人くらい集まつた。聴衆は10～20人くらい。半分は土建業者。これで説明会をやりましたという形をつくつた。個別の案件については、その前に個別に説明会をするから承認してくださいと言っている。そして、個別の案件について説明会をせずに強引に進めている。こういう流れの中で私は発言しているんです。ただ単に反対だと言っているわけではないです。健全な計画に沿ってやっているのか。どこかに恣意的な、あるいはおかしなものを仕込んでいるのではないか。総合計画もそうです。市役所に都合の悪い発言をすると服を引っ張りに来ますから。発言しないでくれと。これが実態なんです。そういう流れの中でこの計画もそうだと見ています。何回も何回も同じパターンを繰り返せばまたかとすぐに分かる。だって、リフォームしなければ老朽化が進むなんて子どもでも分かる。リフォームすればいいじゃないか。暑さ対策で4kmを3kmにする。本当にそれでいいのか。小学生だって分かる。そんなシナリオを作ってるからおかしいと言っている。笠懸に小学校を作ることが見え見え。大間々の人には大南小の問題で目をそらさせている。

委員 3	この検討委員会、どうやったら進みますか。
委員 1	私はこの検討会は意味がないと言っている。
委員 3	それは、委員 1さんが今までの経緯を長く見てらっしゃるからというところ

	もあると思います。ただ今回、このように委員会として開かれて、我々も委員として招集されています。私は1回目の会議で内容を初めて見させていただきました。前のところの詳しい経緯は分かりませんが、この先のことを考えていきましょうという話だと思います。自分もそうですが、皆さん選ばれて来ていますから、それぞれ意見があると思います。そうでないと、我々もいてもずっと何もしないでいることになってしまいます。
委員 1	あなたの言い分はよく分かりますが、3地区それぞれの計画でいいんですか、スタートポイントが違いますよと言っている。原案そのものがおかしいと言っている。原案をよしとすればあなたの言うとおり。
委員 3	去年と一昨年に検討委員会があつて、最初はみどり市全体の問題として取り上げて話がされてきました。その中で地域が抱える問題がいろいろと細かく違うということなので、大間々地区の我々の持っている意見を吸い上げましょうという会がこの会ではないのですか。
委員 1	だから私は意見を言っているんです。みどり市全体としての計画にしましょうという提案をしているんです。なんで笠懸ばかり大型投資が行くのか。人々の意識も大間々と笠懸の間で分断が起こっていますよね。
委員 3	起こっているんですか。起こっているかは分からないです。
委員 1	起こっているんです、露骨に。だって大型投資は全部笠懸なんだから。なんだなんだということになるでしょう。それでいいと思っているならそれはそれでいいかもしれませんけど。私はみどり市全体の都市計画としてそれはアンバランスだと言っている。だから大南小だけの問題ではないんです。みどり市全体の都市計画であり子ども施策もある。その中で3地域それぞれでいいという話ではないという考えが私の原点です。みどり市の学校の配置はどうあるべきかというのがあって、それを1月から言っているのに何のレスポンスもないから言っているわけです。今初めて言っているのではない。1月の住民説明会でも発言し、パブリックコメントにも書きました。市長にもこんなパブリックコメントを出したとメールをしました。夏の時にも発言したけど今回も何もレスポンスがない。
議長（委員長）	今委員3さんがおっしゃっていただいたように、他の方々も時間を割きながらご参加いただいている。今日の会の趣旨についても話をしていますので、皆さんのご意見を踏まえながら会を進めていきたいと思っています。委員1さんがおっしゃる部分につきましては、〈方向性を得る協議内容〉の③の部分で十分議論ができると思います。ただ委員1さんが会の進め方のことをおっしゃるので、それはかなり無理があると思います。会はここまで進んできていますから。その流れの中で我々は集まって議論をするという形をとって議論を積み重ねていくという考え方で臨んでいただきたいのですが。
委員 1	強引ですね。だって私こんなこと発言してませんから。私が発言したことに入っていませんから。
議長（委員長）	委員1さんは前回みどり市全体のというお話をされました。それは私も覚えています。そのことは、「地域の枠を超えた学区の見直し等による市の一体感」というふうに少し軟らかい表現になっていますが、決して大間々地区に限定し

	たものではないんだと、大間々のことを考えながら全体のことを見していくような考え方で議論しようとしています。今日はその第一歩のところです。これは簡単に答えが出るとは思っていません。かなり難しい問題が入っていますので。
委員 1	理解に苦しむね。委員長さんが言っていることは理解ができません。
議長（委員長）	どんなところが理解していただけないですか。
委員 1	こんなことで本当にいいのかと思っているんです。みどり市の学校の在り方が。こんな決まり方をしていいですか。私の発想の原点は極めて単純なんです。いつまでたっても東村、大間々町、笠懸町なんですか。学校給食の在り方なんて今頃出してきたけれど、学校給食なんて学校が二つになればセンター方式になるのが当たり前。そんなの結論が出ている話だ。
委員 4	じゃあそろそろ会にしませんか。議長さんに任せて進めましょうよ。1時間も経ってしまったから。
委員 1	時間がきたら終わりにすればいいんじゃないの。
委員 4	それじゃあ議長さん、お願いします。

（1）大間々町における学校適正規模・適正配置について

- ・【資料2】に基づき、事務局から説明。
- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発言者	発言内容
議長（委員長）	資料2の表面のところで現状について説明してもらいました。特に大南小の児童数の減少が顕著に表れている中で、今後どうしていくのかというところが課題になっているわけです。大南小のところについて、前回もお尋ねした部分はありますが、PTAの方から感じるところやお考えをお話しいただきたいです。
委員 3	元々自分も地元の人間なので、大南小を卒業しています。その当時は一学年2クラス、学年の人数はだいたい40人くらいでした。中学校では一学年が4クラス、学年の人数はだいたい150～160人くらいでした。現状は、今年の1年生に関しては9人ですが、だいたい一学年15人前後なので、規模としては小さくなっています。自分も地元ですし、卒業した学校でもあるので、何とかして大南小を残してほしいと思っていました。ただ、今の時代となってはそうも言ってられないで、例にあるように大南小の跡地を中学校として活用するなど別の形に変わるのはしょうがないかなと思います。今すぐ大南小がなくなるという話ではないので、将来的に見て効率のよさも含めて有効に活用していくけるように話を進めていければいいのではないかと思っています。
委員 1	結局こういう図を見せられると、こういう方向に行くんですね、しょうがないかと。でもそうじゃないと思うんです、長い目で見たときに。あのときに決定したことがそれでいいのかと。そのときに自分たちはいないのだからいいやというのは無責任だと思う。私には見えるんです、ああいうことをすれば必ずこうなるよねという方程式が。大間々だけに限定すればこれで仕方がないということになる。でもみどり市として見ればまた違う考えが出てくる。そういう時代だと思っている。自分たちが自分たちの将来をどうするか。あなた方若

	い世代はそれでいいんだと言うかもしれないけど、私たちの世代から見たら、先々また同じことが起きるよと見えるんです。それで心配しているんです。
委員 3	じゃあ委員 1 さんは、今これが進んでいったときに、どういう問題が起きると思っていらっしゃるのですか。
委員 1	どんどん過疎化しますよ。大間々地区が過疎化します。笠懸はそこそこ発展するでしょう。あれだけお金をかけているのだから。大間々には金をかけない、あきらめる。過疎化の方程式だ。どこの自治体も、諦めた自治体は過疎化している。過疎化することに加担している。ある一握りの人がいい目にあって、善良な市民は過疎化の憂き目にあう。働く場所がないから外に出て行く。過疎化をする原因は働く場所がないから。一番いい例は東村。かつては林業と農業が盛んだったから働く場所があった。でも工業化社会になると、工業化社会の賃金と見合わないから林業や農業から離れていく。桐生や前橋に通勤するようになるから渋滞して通勤時間が長くなる。右折帯に 1 台でも止まればずっと渋滞になってしまう。働く場所がなくて桐生や前橋ではなく東京等遠くに行ってしまう人もいる。それがずっと続いている。昔は次男三男だけが出て行ったけれども、今は長男までが出て行ってしまう。それに対して 530 万くれるから戻ってこいと言ったって、仕事がないんだからどうしようもない。これを黙って見過ごしているからどんどん過疎化していく。役場がちゃんとやっているんだろうと思っていたらやっていたなかった。ちゃんとやつていればこんな惨めな状態になっていない。それが見えるから私は強く言っている。
議長（委員長）	今、委員 4 さんと委員 1 さんのところでお話をありがとうございましたが、他の方からご意見はありますか。
委員 2	資料 2 で言うと、学校として使えるのが大北小と大南小と大東小、大中と大東中の 5 つ、校舎を学校として使える施設があるということで、ここを基準に考えていくといいんだろうと思います。そして裏面を見たときに、一番上の例で小学校が大北小と大東小を使って真ん中に中学校を置くというのは、形としてはきれいだと思います。最初の状況で心配されていた大南小の児童が 2 つの中学校に別れて両方とも不安な思いをするということは解消されると思います。大中と大東中が一緒になって大間々で 1 つの中学校ができるのもいいと思っています。また、義務教育学校については、あずま小中学校で義務教育学校のノウハウができるがっているなら、義務教育学校が 2 つあって、義務教育学校がそれぞれ特色を持って、「みどり市って義務教育学校に強いよね」というふうになっていくのもいいと思います。でもこの案は町中から学校がなくなってしまいます。つまり、どのように決まっても、メリットデメリット、善し悪しは絶対にあると思うので、悪しを善しにする努力が必要だと思います。笠西小のときもそうでしたが、作って終わりではなく、作った後にどう対策して、住民の理解を得ていくかが大事。例えば移動距離が長くなる代わりにスクールバスの中で勉強できるとか、児童数が少なくて価値観が固定してしまうのであれば学校を超えた交流を今までの 2 倍 3 倍 4 倍増やしてみるとか。それこそ笠懸の学校と大間々の学校が交流するようなことを増やして、たくさんの方たちと会えるといった方策についてアイデアを出していけば、学校の適正規模

	適正配置を考えたときに、デメリットをメリットに変える、ピンチをチャンスに変えるという発想をもって議論していく方が大事なんじゃないかと思います。これは、みどり市全体の会議のときから言っていたことです。
委員 1	義務教育学校にはどんな利点があるのか、現に先行している学校ではどんな利点が出てきたのか、何で苦戦しているか。一貫校とはどういうものなのか、どんな学校を目指して一貫校にしたのか、目指した方向に行きつつあるのかとても無理なのか。そういうことを踏まえて議論しないと、一貫校について皆それぞれのイメージでいると危ない橋を渡ることになってしまうと思う。
委員 4	私は一貫校はあまり好きではないです。小学校の時に5, 6年生がリーダーシップを発揮して下の子たちをまとめる経験をし、中学校3年生でもリーダーシップを発揮して学校をまとめるように、2回チャンスがあってもよいと思います。一貫校だと1年生から9年生まであるので、自分が中心で何かやるときは入学してから7, 8年後です。そうするといい芽を潰しているように思います。だからまず小学校6年生で最上學年を一度経験して、次の中学校で3年生の時にリーダーシップなり人をまとめる力を養ってから進学や就職、留学等の選択肢を考えていくのもいいと思います。なので私は、どちらかといえば一貫校ではなく、資料2の表にある「大北小、大中、大東小、大東中」のスタイルがよいと思います、最初は。新しい学校を作るという笠懸の話が先ほど出ましたけど、大間々もそうですけど、そんな予算はあるのでしょうか。作ると言うのは簡単ですけど。ランニングコストと予算面と、生徒が減っていくのが目に見えている中で新しい箱を作り、そこにひとまとめにして残った学校は再利用といつてもそこもどんどん古くなるんだったら、先ほどの話と一緒になってします。その辺りはもう少し煮詰めていった方がよいと思います。私は一貫校よりも、小学校6年生と中学校3年生の2回最上級生を経験する方が、子どもにとってよいと思います。
委員 1	六三制のよさですね。一貫校はどちらかというと僻地。分校が昔からある小中一貫校。やむを得ずやっているだけであって、できるならば六三制の方がいいですね、環境が変わるから。環境がガラッと変わることが成長のステップになる。変化があるのはよいことですね。
委員 5	前回の会議の結果を踏まえて身近な方等と話をしてみました。大間々地区の学校を統合したところでこのまま子どもの数が減っていくのであれば最初から1校にするのはどうかという意見とか、大南小が統合せざるを得なくなってしまっても校舎は残してほしいとかいろいろな話が出ました。また、先ほどお話があったように、幼稚園で年長さんがリーダーシップを発揮した中で小学校中学校が一緒になってしまふと、せっかくできていたことが上の学年の人気がいることでできなくなってしまう、甘えてしまう部分もあると思います。なので、一貫校ではなく小中別々でしっかりリーダーシップを発揮できる、しっかりステップを踏んでいける環境がよいと思うので、義務教育学校でまとめるよりは小学校は2校にして中学校を1校にするのがよいと思います。そして、大南小は幼稚園も保育園も近くにあって地域交流もしやすい環境にあると思うので、この配置の中で1校にした場合に大南小の跡地を使うのはよいと思います。ただ、統合

	したところでこのまま人数が減っていって、今回検討した内容で先を見たときに、笠懸の人数は保てていても大間々の人数は減ってしまうという結果は避けないといけないと思います。大北小の統合や学区編制などの話が挙がっていましたが、長い目で見たらそういうことも必要なのかと思いました。
委員 2	結局義務教育学校って何かというと「特色」だと思います。あずま小中学校も英語という特色を出していますけど、まだ足りないと思っています。過疎化していく大間々において、私立なんじゃないかと思われるような特色ある義務教育学校ができれば、教育が人を呼ぶと思います。過疎化における大間々において、人を増やす最後の手段がもしかしたら教育かもしれないというところまで考えるとしたら、義務教育学校 2 校という案もかなりあると思います。義務教育学校は 9 年生までありますけど、2, 3 年生くらいで何か問題があったときに、その先 6 年間 7 年間学校に通えなくなることも十分考えられます。そんなときに、義務教育学校ではないフリースクールやオルタナティブスクールのような第 3 の選択肢が充実している環境を整えておけば、最悪何とかなると思っています。私は学校に通うことが全てだとは思っていないので、義務教育学校を作ることによって第 3 の選択肢でのびのびと過ごせる形がより醸成されるのであれば、それも 1 つかなと思います。そこを推奨しているわけではありませんが、こういう意見の先にはそういう考え方もあると思います。義務教育学校にするか小中学校を残すかの選択肢は、大間々の人口や過疎化の問題に大きく関わる部分があると思って考えていかないといけないと思います。
議長（委員長）	来週、東地区の委員会があります。東地区では適正規模・適正配置の検討は終わっていますので、義務教育学校としてどんな学校を作っていくのかということを皆さんで協議することになっています。義務教育学校の性質として、従来の教育課程とは違ったオリジナルな教育課程を作っていく必要があるということです。 今日何か結論を出さなければいけないという訳ではありませんので、もう少し意見をいただいて協議事項の（1）は終了したいと思いますが、いかがでしょうか。
委員 6	義務教育学校に関しては、年齢が上がっていくイメージしていくときに、従来の小中学校の間に段差があったものをスロープにするというというのが義務教育学校の考え方です。小学校 6 年生から中学校 1 年生に上がる際に大きな段があるという課題に対して、このギャップを解消していくこと。もう一つは、小学校と中学校でそれぞれに校長先生と教頭先生がいますが、義務教育学校として一緒になった際にはその人数だけ教員を配置してよいことになっています。なので、学校数が 1 校になっても教員を十分配当できるメリットがあります。そういうこともあって一部の地域では導入が進んでいます。ただ、皆さんからご発言があったように、最上学年を経験しているかどうかということは教育指導上大きい点があります。それは実体験として皆さんお感じになつてはいると思います。また、中学校に上がる際の段差はデメリットでありメリットでもあります。人間関係がリセットされたり、気分を新たに中学校生活をスタートしたりすることになるので、ある程度の規模を維持できるのであれば、小

	<p>中学校をそのまま存続させるという判断をする自治体が全国的には多いようです。義務教育学校は今後取り得るカードとしてとておくという判断をされる自治体も多いので、皆さんの議論もそのような方向で議論していただいているのかと思いました。</p> <p>私は本日東京で別の会議に参加してきたので、少しご紹介させていただきます。国土交通省が主催する都市再生推進法人の会議に参加してきました、街づくりをしようという若者たちの集まる会議でした。委員2さんと一緒に街づくりをしている方が大間々にいるのですが、その方も来ていましたし、みどり市の若手の職員も参加していました。全国から数百人集まつたのですが、みどり市と同じ過疎地域の課題に直面していてそれを何とか自分たちの街づくりによって街の賑わいを取り戻そうという志を持った人たちが集まつて、会場はすごい熱気に包まれていました。大変示唆があったように思います。やはり人口が集まるところに資源が投下されますし、それは大間々と笠懸の関係もそうだし、群馬と東京の関係も同じだと思います。一方で、諦めたら終わりなので、諦めずに頑張っている人たちもいます。ここから先暗い未来しかないと指摘がありましたが、今大間々に少しずつ夜に明かりが灯るようになってきました。夜はクラフトビールを楽しめるようなお店もオープンしましたし、夜にカフェを開いて居場所を作っているような取組も始まっています。諦めていない人があわられ始めたということを申し添えておきます。</p>
委員 7	<p>この適正規模・適正配置について、大間々地区としてどうするべきかという意見で述べさせていただきます。私は資料2の第1案がよいと思っています。大間々町の幼稚園児や保育園児は本当に減っているという現状があります。統合の話がありますが、実際にその学校に行くのは今の幼稚園児や保育園児です。ところが今の大間々町は1歳児が53人、2歳児が70人、3歳児が74人、4歳児が78人、5歳児が67人しか生まれていないんです。それが大間々の小学校3校に、中学校2校に行くんです。だから、まずは人口が増えるよう大間々を活気ある街にしていく。そして特に大間々の中心地を活性化させるにはある程度中心地に絞って学校配置をする必要があります。そうなると、地域に根ざした小学校は本当に必要だと思います。小学校は地域に根ざした学校にして、中学校は真ん中にどんどん構えて部活や学力などでよさを発展させる。そうなれば、中学校1校小学校2校はいいんじゃないかと思います。ただその場合、大南小の存在が非常に難しいと思います。廃校ではなく統合だという意見があり、大北小と大南小を統合すれば大東小と同じくらいの規模になるからよいのではという意見もあるが、大南小の7区の子は5, 6分で大東中に行けるのに大中まで行かないといけないという問題が出てきます。だから簡単に大北小と統合することができないということで、大南小は残ることになります。反対に大南小を残して大北小が来ればよいかというと、そうすれば北部がガラガラになって過疎が進んでしまいます。そういう意見は昔からありました。でも現実に小学校3校を2校にするには、大北小と大南小を統合するか、大南小の子が大北小と大東小に分かれるかしか選択肢はないと思います。メリットで考えれば、大北小と大東小に大南小の子が行くとなれば、それぞれ5, 6年前の規</p>

	<p>模に戻るだけなので、机イスを用意するだけでよいという財政面の問題はないと思います。そして、中学校はそのまま大中と大東中に行けるというよさがあります。ただ、いつまでも中学校2校のままだと、大中の人数がどんどん減つていき、部活も何も活気がなくなってしまうのではと心配しています。この状況は桐生市も同じです。桐生市は平成28年に多くの小中学校が合併して、3年後にも合併の話が出ています。それは、桐生市は1学年2学級を基準にしているから。みどり市は1学年1学級を基準にしている小規模校のよさを出しています。それでも構わないとは思いますが、今の子どもたちのことを考えると、もっと多くの人数でもまれた方が活気を持つし、いろんな地域にも出て行くと思います。少人数だとどうしてもそういうところが弱いと思います。そういう経験を積ませるためにも、大人数がよいと思います。中学校は特に。今部活動はサッカーでも野球でも3校4校の連合軍です。それで地域移行の流れになってしまっています。だから、地域でまとめて、その地域全体で学校を育てるという方向に持っていくしかないと思います。そのためには、大間々町も5年10年先の1学年1学級をメインに据えるよりは、喫緊の課題として小学校は3年後には統合、その2、3年後には中学校も統合して、活気ある大間々町の小中学校にしていきたい。中学校が大南小のところになるか大中のところになるか分かりませんが中心街に持ってきて、学校が地域と一体化して街を盛り上げていくというふうに進めていかないといけない、いつまでも悠長なことを言ってられないと思っています。是非とも教育委員会には主導権を握ってもらって、その推進をどんどん図ってもらいたい。桐生市に負けずに2028年度には小学校の統廃合を1つ始めて、その数年後には中学校の統廃合を進めてもらいたい。そしてできれば、中学校は新設のよい学校を作ってもらいたい。群馬県でも「大間々にいい学校ができたよ」とアピールすれば、大間々の人たちも喜ぶし、地域の人もより大間々に住もうという気持ちになるんじゃないかなと思います。ぜひそういう財政的な面も大間々に投入していただけるとありがたいと思います。</p>
委員8	<p>端的に言えば、委員7さんが言っていたように小学校2校中学校1校に近づくのかと思います。今の大南小は、私は中学校で通っていました。昔の大間々中学校が今の大南小にありました。そして、大間々に住んでいる人たちは皆その大間々中学校に通学していました。その中で育ってきたので、この図を見て違和感はありません。笠懸に近い方からも大間々中学校に来ていました。遠いところからは自転車で通学していました。</p> <p>私も区長会の方で大間々地区の検討委員会に大間々から委員として2名出てほしいと頼まれたときに非常に違和感を感じました。区長の立場からすると、3区の区長は3区の中の出来事とみどり市をつなぐパイプ役ですとよく市長が言いますけれど、パイプ役というより世話役です。中学校の方の協議会にも充て職で参加しています。協議会の中に入って学校現場を見ると、考え方方が違うんです。学校、先生、生徒の考え方方が違うんです。その考え方の中で、皆さんみたいな若いPTAの会長さんや若い議員の方が出てくる話については、同調はできないけれど、昔に返ろうという話ではないんです。先が見えない中で、</p>

	<p>何とかやっていかなければならないという意欲は感じます。私はそれを見守る側なんだと自分の歳を実感しました。ちょっとショックだった話ですが、進学の話で通信高校という学校があります。私の甥に通信高校について聞いてみたところ、「通信高校の学生は優秀だよ」と言っていました。私は県立高校に行けないから通信高校に行くのかと思っていましたが、そうではないよと。中学校の時点で将来の夢があって、そのために通信高校に通っている学生の方が、何も考えずに高校3年間を過ごして大学に入って卒業してくる若者よりも優秀で、今の企業のトップはそういう学生を使いたいんだそうです。昔の経営者の判断で言えば、どの項目についても60点とれれば優秀で、それ以上とれていれば、人はいつか会社を出て行ったり経営者の立場を脅かしたりする、というような考え方の会社が、我々が仕事をしていたときの会社だと思います。でも今の会社は、飛び出た才能がある人材を探りたいと聞きます。「自分はこういうことがしたい」と頑張る学生は能力が全然違うそうです。なので、企業側も通信高校に期待をしているようです。しかし、ここで過疎化の問題です。東京はそういう専門的な高等学校がたくさんあります。例えばパイロットになりたいとすれば、高校からパイロットになるための勉強をするわけです。そして大学を出ればそのまま航空会社に就職します。航空会社だって採りたいと思うはずです。実際にその勉強しかしてこないのだから。しかし、大間々にはそういった専門的な学校がないんです。専門的な学校に行くには1時間2時間かけて通学しないといけないです。子どもたちのことは今の現役の人たちが自分の子どものことに関して一生懸命やってもらいたい。それに対して意見を言うことはありません。</p>
委員 1	<p>今日は皆さんの話を聞いていて、やはりこういう地区ごとの小さくカラーの見栄えのよい図面を見るとその考えに引っ張られてしまうんですね。しょうがないかと。それを心配しています。私が何でみどり市としての計画を立てるべきだと言っているかというと、地区別にやると既成概念にとらわれてしまうからです。既成概念で、大間々地区はこうだからしようがないんだと。そうすると柔軟な考え方や新たな考え方方は出てこないです。みどり市全体として俯瞰して見たらどういう答えが出てくるのかという思いで発言しています。それが必ず将来の役に立つはずです。私は北海道から九州まで転勤族だったんです。その中で各地方の区議長さんや教育関係者の方とも親しくしていろいろなことを学んできました。それに比べて我が故郷はどうなんだと、遠くから見てずっと思っていました。そういうことが私の背景にあります。それから、物事を小さい視点で捉えるか大きい視点で捉えるかによって答えが変わるということを度々経験しました。人間の成長にとっても地域の成長にとっても。そういう観点で、大間々地区にこだわるのはいかがかなと。みどり市全体として考えたら学校の在り方はどうなるんだと。また、都市計画として考えたらどうなるんだと。都市計画の中で学校はどういう立場にあるのかと。それと、人口が減っていくのだから仕方がないと言うけれども、人口が減って過疎化していく原因は何なのか。皆さん対策のことばかり話すけれども、原因の話をする人はいません。原因をつかまないと対策は打てません。過疎化する原因は何か、その1つ</p>

	は人の心です。地域を引っ張るリーダーの心構え、意志、志がどうあるか。北海道から九州までいろいろな人と巡り会って思うのは、その地域を引っ張る人たちと住民の意志、諦める人が多いか少ないか、既成概念にとらわれる人が多いか少ないか、これが非常に大きな要素だと思います。そういう観点で、考える視点を多く捉えれば、いろいろな答えが出てくるかと思います。簡単な答えで言えば、大南小を卒業した子たちが分かれることについてもっと柔軟に考えればいいと思う。例えば、教育委員会の制度を柔軟にして友だちと好きな方に行けばいい。あるいはみどり市のどこの学校に行ってもいいというようにして、一番魅力のある学校に集まるとか。校長先生が一生懸命頑張る学校に行きたがるとか。そんな発想もあっていいと思う。今だったら横並び、横一線ですから。そういう観点で将来を背負っていく世代の人たちのために、何か残したいと思っています。そういう思いで、あえて強く意見を申し上げました。
議長（委員長）	今日はいろいろなご意見をいただきました。（1）についての話に集中したかと思います。これは、次回も引き続き今日の議論を踏まえて検討していこうと思います。（2）については次回に持ち越したいと思います。

（2）給食提供方式について

- ・会議終了時刻を過ぎたため、次回委員会に持ち越し。

4 諸連絡

第3回委員会　日時　令和8年2月3日（火）19：00～

会場　大間々庁舎　3階　大会議室

5 閉会